

受付No.

2026年度 アートによる地域振興助成（スタートアップ）

公益財団法人 福武財団 理事長 福武英明殿

募集要項に則り、本応募用紙に記載した通り、標記助成に応募いたします。

<団体プロフィール>

団体名	一般社団法人アーツいとしま				
住所	〒819-1613 福岡県糸島市二丈松末549-7				
団体区分	一般社団法人	スタッフ数	5名		
代表者氏名(カナ)	マツザキ サオリ	役職	代表理事	年代	40代後半
代表者氏名	松崎 早織				
団体URL1	https://artsitoshima.org/				
団体URL2	https://www.instagram.com/artsitoshima/				

<申請者・実務担当者> ※団体所在地と同じ場合は「同上」*申請者には、助成に関する諸手続きの連絡担当者の名前を記入してください。

申請者氏名(カナ)	マツザキ サオリ	役職	代表理事	年代	40代後半
申請者氏名	松崎 早織				
連絡先 e-mail	artsitoshima2024@gmail.com	電話番号	080-2073-6959		
住所(書類の送付先)	同上				

<プロジェクトリーダーの略歴> ※アートプロジェクト等の運営経験や当時の役割を記載してください。

氏名(カナ)	マツザキ サオリ	役職/肩書	代表理事	年代	40代後半
氏名	松崎 早織				
年(西暦) 月	略歴(活動内容)				
2018年12月	株式会社Studio Kura入社。アーティストインレジデンス及び、絵画造形教育の企画、指導全般に従事				
2024年10月	九州大学基金「糸島インクルーシブ・アートヴィレッジ・プロジェクト」アートコーディネーター就任				
2024年12月	一般社団法人アーツいとしま設立				
2025年6月	「糸島市文化芸術推進基本計画」策定アドバイザー就任				
2025年8月	札幌市助成事業「教材開発や探求学習を支援する助成プログラム」審査員を務める				
2025年10月	「糸島国際芸術祭2025」実行委員および協力企業として参画				

<福武財団の助成実績>

助成を受けて活動した年度

<外部協力者の状況>

氏名	年代	組織名	所在地(市町村まで)	協力内容(できるだけ具体的に)
南条嘉毅	40代後半	美術家	和歌山県東牟婁郡串本町	アーツ・ベースド・リサーチの手法を活かしてリサーチ、作品制作を主として担当する。参加者の主体的な創造活動を促す。
長津結一郎	30代後半	九州大学	福岡県糸島市前原中央	九州大学准教授。専門はアーツ・マネジメント、文化政策。2024年から糸島市文化芸術推進基本計画に携わる。地域連携におけるアートの可能性を評価・成果分析の面からサポートする。
松崎治磨	60代後半	株式会社百笑屋	福岡県糸島市二丈松末	地域の農家。区の代表。地域住民との橋渡し役を担い、会場提供や地域との調整を行う。地域コミュニティとプロジェクトをつなぎ、円滑な実施を支える。
江藤美紀	40代後半	糸島新聞社	福岡県糸島市二丈田中	新聞社社員。記事を通じてプロジェクトを広く発信し、地域社会への周知・理解促進に寄与する。子どもたちへの文筆指導もサポート
田川基成	30代後半	写真家	糸島市二丈深江	糸島を拠点とする写真家。聞き取りや記録の撮影、作品化への協働、展示用素材の制作。子どもたちへの文筆指導もサポート

<活動内容・事業計画について>

表現手法	コミュニティアーカイブ
活動テーマ	郊外（の地域振興）
事業名	語りを描くときー聴きとりの圖
2026年度の活動期間	2025/04/01 ～ 2026/03/31
活動に従事するスタッフ数	2名

1. 団体の活動の概要

<p>糸島市は、福岡市近郊にありながら海や山に囲まれ、地域ならではの伝統や自然の営みが今も息づく場所です。私たちは、この土地固有の文化や暮らしを大切にしながら、文化芸術の振興に取り組んでいます。地域の子どもや住民と共に協働制作を通じて、遊びながら学び、体験しながら創る場や、地域に根ざした展示やワークショップを生み出しています。</p> <p>教育・文化・地域振興をつなぐ持続可能な基盤を整え、多様な人々がともに集う場をつくることで、地域の人々が自ら文化の価値を感じ、暮らしの中で文化を共に育むことを目指しています。日常にそっと寄り添いながら、糸島の“いま”と“これから”をアートの力でつなぐことを大切にしています。</p>
--

2. これまでの活動の沿革

申請事業の活動年数	0～1年
年（西暦） 月	活動内容
2024年12月	設立
2025年2月	共催「九大基金IAVP とまり大学 ゆいの旗／タイムスリップカフェ」
2025年6月	主催「うみべのプレイパーク」
2025年7月	共催「九大基金IAVP とまり大学 泊大燈籠」
2025年8月	協力「国際交流アートプログラム フレームごしに君を描く」
2025年10月	協力・参加「糸島国際芸術祭2025」
2025年11月	主催「学び合いで高める！アウトリーチの創造実践ラボ」（予定）
2025年11月	協力「地域創造：田村緑アウトリーチ（深江小学校）」（予定）

3. 活動エリアについて

活動エリア	福岡県 糸島市
活動エリアの特色（歴史、文化、地域性、魅力など）	<p>糸島市は、福岡市近郊に位置し、海と山に抱かれた豊かな自然と、古くから続く生活文化が共存するまちです。人口はおよそ十万人で、農業や漁業を基盤とする小さな集落、鉄道沿線の住宅地、そして九州大学の移転に伴い開発が進む新しいエリアなど、多様な景観と暮らしが混在しています。</p> <p>また、国や県に指定された数多くの文化財など、歴史的資源にも恵まれています。一方で、移住者を中心とした小規模な現代的イベントや催しも多数行われており、自然と文化、そして新しい人の流れが交わる、独自の魅力あふれる地域です。</p>
活動エリアの課題（まず初めに、活動エリアにおける課題を簡潔にご記載ください。続けて、その課題の背景や詳細について、できるだけ具体的にご記入ください。）	<p>高齢化の加速に伴い、伝統行事や生活文化の継承が困難になっています。また、農業や漁業に従事する高齢世代と都市部へ通勤する世代では価値観や生活スタイルが異なり、地域の交流の場として機能していた行事等も、その役割を十分に果たせなくなっています。加えて、地域資源の可視化や活用の仕組みが限定的であることから、文化記録や継承の体制も十分とはいえません。背景として、特に70代前後の世代が、伝統行事に参加してこなかったことから、従来の「高齢者＝文化継承者」という前提が成り立たなくなっていることが上げられます。市外からは文化的に豊かな地域というイメージで語られることが多いが、実態との間には乖離が見られる現状です。</p>
貴団体の地域に対するミッション（活動の目的）	<p>私たちは、地域の文化継承が困難になりつつある現状を踏まえ、アートを通じて地域文化を可視化・継承し、世代や住民の交流を促進するとともに、地域の文化振興につなげることを目的とします。</p> <p>具体的には、地域の高齢者の証言や生活文化を聞き取り、記録し、それを作品として表現する過程を、こどもたちを含めた地域の人々とともに体験することで、文化への理解と関心を育みます。また、集落や家庭で受け継がれる祭りや工芸、遊びや生活習慣など、小規模ながら独自性のある文化活動を発掘し、アートや記録を通じて広く共有することで、住民自身が文化資源の価値を再認識し、未来へ継承する契機を生み出します。</p>

7. 2026年度プロジェクト評価の観点や指標をどのように設定しますか。

定性（状態的な目標）、定量（数値的目標）をお書きください。

本プロジェクトでは、活動成果を「文化の継承・共有」「教育的効果」「地域コミュニティの活性化」の3点を軸に評価します。定性評価としては、地域住民や参加者が、地域の歴史や生活文化への理解と関心を深め、文化資源の価値を再認識できているかを重視します。加えて、高齢者と子ども、住民、アーティスト間の交流が生まれ、世代や立場を越えたつながりが育まれているか、また聞き取りや作品化の過程が参加者にとって能動的で創造的な学びとなっているかを観察・記録します。定量評価としては、①高齢者、地域住民への聞き取り件数15件以上、②子どもや住民の延べ参加者数70名以上、③作品化された成果物5点以上（展示・公開含む）、④地域向けワークショップの実施1回以上。⑤地域内外への発信3回以上（展示・報告会・メディア掲載等）を指標とします。これらの定性・定量両面の指標をもとに、外部評価者を交えたふりかえりを実施し、次年度以降の改善と発展に活かします。

8. 2026年度の翌年以降の、地域に持続的に関わる中期計画と将来ビジョンをお書きください。

※一般申請者は、その計画・ビジョンの展開がこれまでの活動の積み重なりどのように紐づいているかと、その展開に事業や運営体制をどのように反映していくかについてもお書きください。

地域の記憶を「聴く」ことから始まった小さな対話を、次の創造へとつないでいきます。翌年度以降は、リサーチで得られた物語や記録をもとに、地元アーティストや住民が協働して作品を生み出す試みを進めます。アートを通じて世代や立場を越えて関わり合うことで、地域の文化を「守るもの」から「ともにつくり続けるもの」へと育てていくことを目指します。聞き取りの対象や参加者を少しずつ広げ、集落内での世代間交流を継続的に行いながら、若手アーティストや地域のクリエイターが関わる機会を増やしていきます。住民が主体となる学びと創造の場を定期的に設け、地域の中で文化を自ら語り、表現する力を育てます。活動で生まれた作品や記録は、展示や発表を通して地域内外に共有し、糸島の文化の魅力を多様なかたちで伝えていきます。さらに、地域のアーティストや大学、行政などと協働し、ゆるやかなネットワークを築きながら、持続的に活動を支える基盤を整えていきます。将来的には、地域の人々とアーティストが協働しながら文化を継承・創造していく「参加型アートプログラム」として定着させ、糸島の暮らしの中に根ざした文化の循環を生み出していくことを目指します。

9. 2026年度以降、複数年の助成を希望していますか？

はい

<活動の様子>



地域の様子。敬老会で和気あいあいと交流しているところ。約100世帯中のほとんどが高齢者世帯。



地域の様子。天満宮での縄ない行事。70代でも作り方が分からない人がいるので、教え合って継承している。



地域の子もたちとフィールドワークをして、集めたものを自分たちで展示した「そら辺のもの展」を開催。

